

(仮称)規格型トレオ I の開発

(目的) 「(仮称)規格型トレオ」は、従来の「自由設計型トレオ」に規格性を持たせることで、設計、生産および現場の省力化を計り、自由度とコストメリットの両立を目指す。

(特徴) 「(仮称)規格型トレオ」の開発は、Phase I からPhase III までの3段階により、適応範囲の拡大を計る。今回、Phase I となる「(仮称)規格型トレオ I」の開発では、適用範囲を平屋建て／ラーメンブレース形式とする。

「(仮称)規格型トレオ I」の開発テーマは5つの要素からなる。

- ① 屋根および母屋では、新形状の箆合式屋根折板を標準化。母屋となる軽量 H 形鋼にはタイトフレームを工場先付けとし、現場での安全性・品質の確保・工程の圧縮を追求した。
- ② 外装および胴縁では、SD 角波専用の新しいリップ付 C 形鋼を採用する。胴縁の配置と納まりが単純化され、胴縁の鋼材重量の大幅な削減が可能となる。
- ③ コーナーブロックは、主架鋼の柱梁接合部をブロック化。最適な設計により柱材および梁材の構造断面のサイズダウンを計り、主架鋼の鋼材重量の削減が可能となる。
- ④ 天井走行クレーン用のランウェイガーダーでは、ランウェイガーダーを受ける火打ち梁を標準化することで、鉄骨加工の生産性向上を計る。
- ⑤ 直接基礎では、新しい形式の連続フーチング基礎の採用により、適用範囲の拡大が可能となる。

(効果) 「自由設計型トレオ」と比べ 10% 以上のコストダウンが期待できる。

(採用目標) 「(仮称)規格型トレオ I」の販売開始は 2019 年 4 月を予定しており、2019 年度では年間 20 棟の採用を目指す。



(仮称)規格型トレオ I の試作試験状況